

# GREEN ニュース

行動する  
環境アドバイザーの会報

第61号

環境アドバイザー連絡協議会  
代表 須永 徹  
平成26年12月発行

今年の2月7日に前橋で積雪33cmを記録した大雪の記憶も抜けない2月の14日から15日にかけて関東甲信越を襲った記録的な大雪は前橋で73cmと史上最深積雪量を記録しました。

群馬県で8名、9県で26名の死亡者を出し、多数の負傷者や家屋、農業設備の倒壊などで多大な被害が出たことは記憶に新しい所です。

非公式ですが高崎市の我が家でも80cm、鼻高の丘陵地では95cmを記録したとか。

地球規模での温暖化は「中緯度の気候の ゆらぎ を激しくさせる」ことで「例年よりも暖かい・寒い冬のいずれかを迎える頻度が多くなる」という仮説が下記HPに紹介されています。

(地球環境研究センターHPより)

早急な対策が求められると共に、今冬も警戒が必要かもしれません。

記：広報委員会 田中和夫



「2月の大雪で埋まった車」

## 群馬県環境アドバイザーの動き

(平成26年12月20日現在)

第9期(登録期間:平成24年4月1日～平成27年3月31日)です。新規登録者を含め平成26年12月20日現在、男209名女83名、計292名です。

自然環境部会 69名 温暖化・エネルギー部会 56名

ごみ部会 49名 広報委員会 23名が登録し活動されています。



サポセンブログを、携帯電話、スマートフォンで見よう。  
左のQRコードを読み込んでね、スマートフォンの設定でグリーンニュースが見られます。

目次(執筆者)

表紙画像 田中 和夫氏

P2 環境政策課

P3 代表から、広報委員会

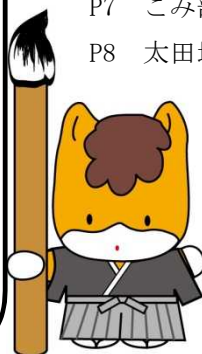
P4 温暖化・エネルギー部会

P5 温暖化・エネルギー部会

P6 温暖化・エネルギー部会

P7 ごみ部会、自然環境部会

P8 太田地区からの投稿



賀正



## 『こどもエコクラブ』始めませんか？

環境政策課 松村 賢一

今回は『こどもエコクラブ』についてのオススメです。こどもエコクラブは、(公財)日本環境協会が主催する子どものための環境活動クラブです。群馬県も地方事務局として活動を支援しています。子どもと活動を支援する大人がいれば、誰でもクラブを始められます。ズバリ、メンバー(お子さん・お孫さん)とサポーター(お父さん・お母さん・おじいちゃん・おばあちゃんなど)が家族でエコクラブを作る「家族クラブ」で始められるのです。県内にもいくつか家族クラブがあり、小規模ならではのフットワークの良さを活かして活動しています。

活動内容は基本的に自由ですが、何をするかを家族で話し合い「環境を守るために自分たちが無理をせず続けられること」を実行すれば活動になります。その他、地域の清掃活動への参加や家庭内で省エネや節電などのエコ活動を続けるのも良いでしょう。もし、活動の見当がつかないという場合は、「こどもエコクラブ全国事務局ホームページ」(<http://www.j-ecoclub.jp/>)を見ると、全国の大小たくさんのクラブが個性的な環境活動を展開し、報告しているので大変参考になります。

群馬県環境政策課では、隔月でのサポーターズニュースの発行などの情報提供に加え、夏の学習会と冬の交流会のイベントを開催し、クラブの活動をサポートしています。

今年度も、1月17日(土)に前橋市児童文化センター(西片貝町5-8)で群馬県こどもエコクラブ交流会(12:15開場 12:30開始)を開催します。

クラブ活動の発表と交流が目的ですが、今回は初の試みとして「エコクラブリユースこうかん会」を実施します。これは、子どもたちが自分の家ではもう使わないけどまだ使えそうな物を持ちよって、交換しあう会です。子どもたちが、リユースという言葉はどうとらえ何を持ってくるのか、どんな会になるのか楽しみです。こどもエコクラブに興味のある方は、是非見に来てください。

エコクラブ登録は、全国事務局、群馬県環境サポートセンターあるいは市町村に設置された事務局あてに所定の様式を送ればできます。登録に費用はかかりません。アドバイザーの皆さんもエコクラブに登録して子どもたちの環境活動にお手伝いをお願いします。

全国では2,129クラブが、群馬県では29クラブ、2,268名のメンバーが活動しています。

こどもエコクラブに関する詳しいお問い合わせ、情報は…

群馬県環境サポートセンター(平日 9:00 ~17:00)

TEL 027-226-2827 FAX 027-243-7702

群馬県こどもエコクラブホームページ <http://www.pref.gunma.jp/04/e0110035.html>

こどもエコクラブ全国事務局(公財) 日本環境協会 TEL 03-5643-6251

## ESDと環境アドバイザーの役割

ESDとは、持続可能な開発を促進するため、に地球的な視野をもつ市民を育成することを目的とする教育で「一人ひとりが、世界の人々や将来世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育」と定義されています。

しかし具体的に何をどう行うかと言うことについては、ESDの概念を難しく考え過ぎているのか、あまり定まっていないようです。

ここに環境アドバイザーが関わって行けることが多いのではないかと思います。部会で検討したり実施していることは、そのまま次世代のためによりよい地球環境を残していくための活動と言えるでしょう。自然環境については勿論、ごみ問題、エネルギーや地球温暖化防止などに対する研究や実践活動は、まさにESDを行うということに対する一つの実践活動としての回答であります。私達は、それらの活動を通して知り得た知識や技能等を次の世代に伝えていくことも、今まで以上に視野にいった活動を展開すべき時になって来たのではないかと思います。

環境問題に対する関心がより高く、何らかの形で行動したいということの発露として環境アドバイザー登録を行った訳ですから、地域を中心とした啓蒙活動や子供達への社会からの教育者としての活動を、あらためて新しい年からスタートしてみたいはいかがでしょうか。

(環境アドバイザー連絡協議会 代表 須永 徹)



2015年もよろしくお祈いします！

— 広報委員会から —

2014年は皆様のご協力によりグリーンニュースも58号(4月)、29号(6月)、60号(10月)、61号(12月)と年4回のペースで発行することができました。

残念だったのは皆さんからの投稿記事や投稿写真が少なかったことです。どんな短い文章、簡単なスナップ写真でもかまいませんので編集部あてにお送りください。

いまやネット社会、紙媒体としての機関紙の役割についても皆さんと一緒に考えて行きたいと思えます。また従来からの課題であるリアルタイムでのネット発信についても引き続き検討していきます。皆様のご意見をお聞かせください。

(広報委員長 田中 和夫)

## 環境アドバイザー 温暖化エネルギー部会特集！！①



「食とエネルギーのスリム化フェス」に「前橋の地域若者会議」とコラボ参加



「環境学習」発電の様子



高崎市「自給屋」さんのかまど、奥はバイオマスガス用のトイレ

<まずは活動報告から>

現在月一回のペースで会合を開いています。場所は主に前橋市城東町の「地球温暖化防止活動推進センター」さんをお借りしています。

活動の内容としては上の写真にあるようにイベントへ参加したり、実験をしたり、さまざまな場所に見学へ行ったりしています。今一番の関心は「再生可能エネルギー」。チップ、ペレット、薪と言った各種ストーブに興味津々です。また「環境学習」として身近なものからの発電実験に何度か挑戦しました。例えば炭、リンゴ、10円と1円の組み合わせからも発電に成功し、みんなで大喜びしました！変わったところでは振動からの発電も！

いずれも小規模実験ですが間違いなく電気が発生しました。

これらは12月後半に児童対象に講習を行う予定です。

### 『環境学習』

日時：12月26日 10:30～12:00 場所：きよさと児童クラブ(前橋市)

対象：小学生 内容：身近なものから電気を作ろう！

## 環境アドバイザー 温暖化エネルギー部会特集！！②

当部会では環境問題について国内から全世界の動向まで常に最新情報を入手して話し合い、共有しています。注意しなければいけないのは地球環境問題が全く休む間もなく日本国内のみならず、世界中の動向が変化し、環境技術のイノベーションが行われている事です。以下に最近の地球環境問題に関するトピックスをいくつか掲載しておきます。

### ●2014年11月

アメリカ（京都議定書2001年離脱）と中国が首脳会談を行い、地球温暖化対策をめぐり二酸化炭素の排出量を削減する新たな目標で合意した。

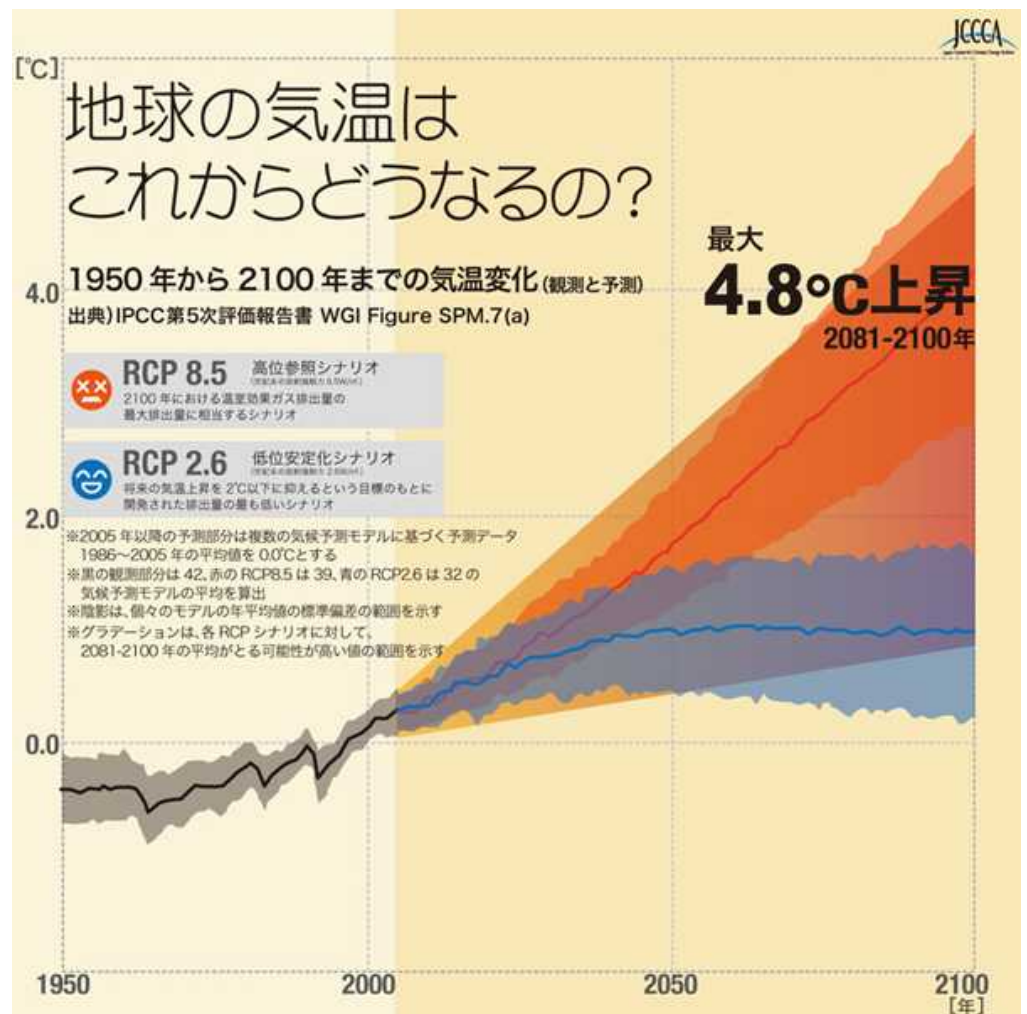
これは数値的には物足りないという評価があるものの前向きに捉えるべきことである。

（※中国が将来の削減をめぐり数値目標を示すのは初めて。）

### ●2014年11月

IPCC（気候変動に関する政府間パネル）が第5次評価報告書を発表

この報告書では地球の温暖化傾向に疑いの余地はなく、このまま対策がなされないケースでは、今世紀末には地球の平均気温が4.8℃上昇する可能性が示唆された。



< J C C C A 全国地球温暖化防止活動推進センター資料より >

日本国内では・・・

### ●2014年8月

豪雨による広島市の大規模な土砂災害が発生

### ●2014年9～10月

大規模な台風18号19号が発生、多くの市民が避難した。今後も気候変動に伴う大規模な気象災害が予測される。

## 環境アドバイザー 温暖化エネルギー部会特集！！③

＜エネルギーコストについて＞

今後のエネルギー政策については様々な意見と話し合いがなされていますが、その時にどうしても話題になるのがコストについての検証です。最新の情報による世界の比較を掲載しておきます。

●米ニューヨークに本社を置く投資銀行ラザードが11月に公表したエネルギーのコスト分析によると、太陽光発電は1キロワット時当たり5.6セント（約6.5円）という価格まで落ちている。風力に至っては1.4セント（約1.6円）である。

それに比べて、これまで安いと言われていた天然ガスは6.1セント（約7.1円）、石炭は6.6セント（約7.7円）で、ラザードの数字だけを見る限り、コストの逆転現象が起きている。

●欧州連合（EU）の常設委員会である欧州委員会が11月中旬に発表したエネルギーのコスト分析でも、同じような内容が記されている。

70ページに及ぶ報告書には、風力発電のコストはすでに石油や石炭、原子力発電よりも安くなっていると指摘されている。コストの中には発電や送電の費用だけでなく、大気汚染や動植物への影響なども換算されており、総費用で風力がもっとも安いとの位置づけだ。

●日本政府が2011年に公表した火力発電のコストは、石炭で1キロワット時当たりが9.5円、天然ガスは10.7円という数字だが、2014年度の再エネ固定価格買い取り価格を見ると、太陽光は1キロワット時当たり32円で、風力は22円。石炭が安いという数字である。

（情報源：JBPRESS スマートエネルギー情報局より）

以上のように情報元によってコストも変わる点には注意しなければならないが、日本国内では高いとされる再生可能エネルギーは先進国レベルにおいては「低コストである」という認識でほぼ一致している。

他にも原油価格の下落や安定しないなどという意見もあるがそれでも世界的流れは「再生可能エネルギー」が支柱となっていくことが予想されている。



なんと屋根にソーラーパネルが組み込まれた車が登場した！

「C-MAX Solar Energi Concept」の外観。

出典：米 Ford Motor

（温暖化・エネルギー部会長 田口 勇夫）

## みんなのごみ減量フォーラム

前回の「みんなのごみ減量フォーラム」以来、月1回位のペースでごみ部会を開いてきた。その中で感じたことをいくつか書いてみたい。

地域のごみステーションには燃えるごみの日にも関わらず、飲料缶や食器類などの燃やせないごみが常に出ている。ゴミ袋が異常に重いのは生ごみに多量の水分が含まれているせいだ。分別や水切りのルールが遵守・徹底されればごみはもっと減るはずなのに、簡単にはそうとなってくれないのが現状だ。ごみの問題は最終的には、地域の問題で隣近所が声を掛け合うようにならないと解決できないのではないかと思う。希薄となっている地域の絆を取り戻し、隣近所が助け合えるような地域づくりが必要だ。

ごみと言うのは、人が生きて暮らしている以上、毎日発生し死ぬまで続く。一方、埋立地や資源は有限なのでいつかは行き詰まることになる。大量生産・大量消費だけでなく、ごみや資源を循環させる仕組みが必要だ。それが持続可能な循環型社会と呼ばれている。自然災害対策や福祉・介護など現代的で重要な課題は多々あるが、ごみの課題は万人が避けて通れない共通の問題だと思う。無関心こそが最大の敵と言えるかも知れない。

最近、まちづくりなどで「協働」という言葉が関心を集めているようだ。英語の「COPRODUCTION」の訳語だが、行政と市民が相互に不足を補い合い、ともに協力して課題解決に向けた取り組みをすることを指している。それぞれが単独で取り組むより、効率的で有効な結果が期待できる。従来、地域でなされてきたことでもあるが、改めて見直されている。まちづくりに限らず、もっと広範に問題解決の手法として有効だと考えられるからだ。

平成27年1月20日(火)、群馬県環境アドバイザー連絡協議会と群馬県との共催で「みんなのごみの減量フォーラム」が開催されることになった。これも群馬県の一人1日あたりのごみの排出量全国ワースト3からの脱却をめざす、ひとつの「協働」と言えるのではないか。是非、成功して欲しい。

(ごみ部会長 山田一朗)

---

## 群馬の主な火山の歴史 1. 浅間山

5万年以上前から噴火を始めており東西にのびるエボシ火山群の東端にあり、最高点は中央火口丘であるカマヤマで標高2,568m。山体は東西15km、南北約30kmの広がりを持ち、体積は約60万立方kmにおよぶ。

浅間山といった場合はクロフ山、ホトケイワ、マエカケ山の3つの複合火山としてとらえても良いかも知れない。クロフ山は10万年前誕生説すらある2,800mほどの富士山形の成層火山であったようです。

およそ23,000~24,000年前に山体の東部が大きく崩壊し北と南に流れて下りました。塚原土石ナダレ、クロフ山時代とも云われています。その後仏岩の時代(旧石器)、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代、江戸時代(天明3年の噴火)をへて近現代に至っております。

(自然環境部会長 宮崎 亮二)

## 太田市新田地域の湧水地

太田市内には国内でも有数の規模を誇る大間々扇状地に涵養された新田湧水群が有ります。

大間々扇状地を構成する堆積物は粒の粗い砂礫の層で出来ていて地表に降った雨水などが浸透し伏流水となって地下を流れます。この地下水は砂礫層が薄くなる扇状地南端部の標高 55～60メートル付近で湧出し湧水群として目にすることが出来ます。

この恵まれた水環境は自然界では生物に豊かな成長をもたらすとともに古代には豊富な水を背景に稲作などの農業が盛んになり湧水地周辺には集落が分布していました。湧水地は東国を代表する荘園『新田 荘』開発の上で大きな役割を果たし、矢太神水源と 重 殿水源は新田荘に関連する遺跡とともに、史跡『新田荘遺跡』に指定されています。

しかし現在は開発による土地利用の変遷や地下水のくみ上げなどにより湧出量が減少し、住民の関心も薄れ放置されたり埋め立てられた湧水池も出てきました。

記録に残る湧水地は約120箇所に及んでいますがその後枯渇したものや埋め立てられたものも多くあり現在も湧出が確認できるものは28ヶ所となっていてこれらの保全整備は急務となっています。

「NPO 法人新田環境みらいの会」は自然環境の保全と創造の実践のために私たちは何をしなければならぬのか、私たちに何が出来るのかテーマに湧水池や河川の自然環境の保全、新田湧水地群とその周辺の生物の多様性の視点から、良好な自然環境を保全するための調査・検討・実践を進めています。

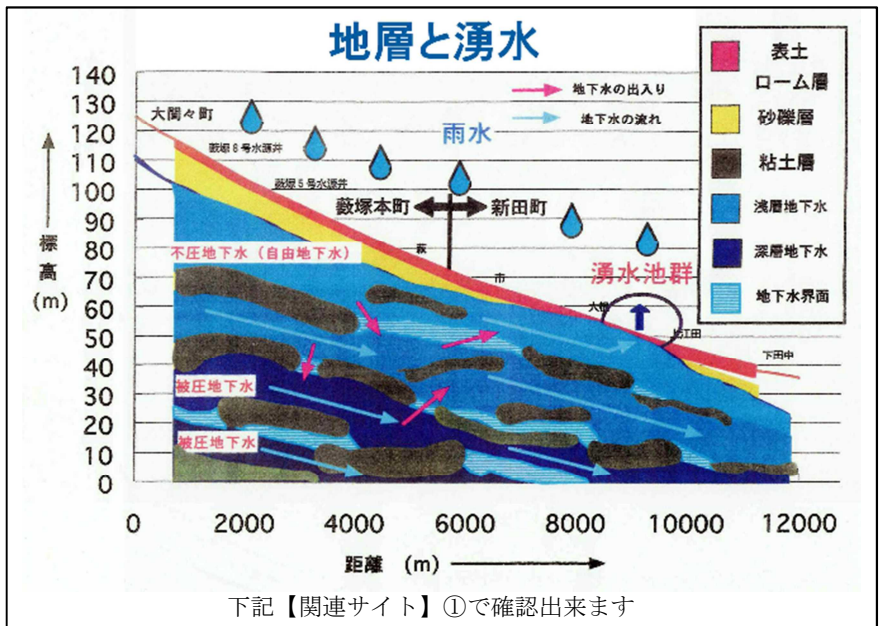
「NPO 法人新田環境みらいの会」は自然環境の保全と創造の実践のために私たちは何をしなければならぬのか、私たちに何が出来るのかテーマに湧水池や河川の自然環境の保全、新田湧水地群とその周辺の生物の多様性の視点から、良好な自然環境を保全するための調査・検討・実践を進めています。

### 【主に活動しているフィールドの登録】

- ① 「関東・水と緑のネットワーク拠点百選」：矢太神沼周辺と谷地池周辺
- ② 「モニタリングサイト 1000 里地調査の一般サイト」：矢太神沼周辺
- ③ 「ため池百選」：妙参寺沼

### 【関連サイト】

- ① 湧水地の紹介（新田環境みらいの会）  
<http://www7a.biglobe.ne.jp/~NITTA-MIRAI/>
- ② 平成17年度新田地域湧水地保全整備事業調査・分析業務報告書(太田市)  
<http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0090-001kankyo-seisaku/nittareport-h17.htm>
- ③ 新田地域の湧水地（太田市作製のガイドブック）  
[http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0090-001kankyo-seisaku/nitta\\_yusui.htm](http://www.city.ota.gunma.jp/005gyosei/0090-001kankyo-seisaku/nitta_yusui.htm)  
 （太田地区 西村豊）



自然が残された水路

矢太神水源で見られる自噴現象